



出中だより

第4号

発行 令和7年2月20日(木)

砺波市立出町中学校

砺波市立出町中学校・・・

校長 廣瀬 敬一

「学校とは何か？」

教師になってからずっと自問自答しているわたしの課題です。今も尚、継続中ですが、現時点での考えがあります。

世界中で、大昔からその姿や形を変えながら「学校」は存在し、今その場にわたしはいます。学校は「知のバトンを受け渡す場」であり、「人とつながる場」であり、「自分を知る場」であり、「よりよい社会をつくる場」であると、考えます。姿や形を変えながらも現存するのは、この存在が人類にとって必要だからでしょう。毎日そう思いながら、本気・根気・元気に学ぶ出中生の姿を観て過ごしています。学校は単に子供が通う場所ではなく、人類の未来をつくる場です。このことを教職員は自覚し、その職責を果たしてくれていると信じています。そして、忘れてはならないことが、保護者のみ

なさんや地域の方々や同窓生の存在です。みなさんの存在に、本校教育は物心共に強力に支えられています。教職員は学びを導く存在として、保護者は子供の個性を尊重する存在として、地域の方々や同窓生のみなさんは出中生の安全・安心、そしてその活躍を温かく見守っていただく存在として、その役割は違います。しかし、それぞれが「出中生のよりよい成長」という願いを共有することで、本校の教育が今ここにあるのだと実感しています。

学校はみんなのもの。子供だけのものではありません。校訓「天資養活、自他共栄」の精神を子供も大人も共有しながら、ますます出町中学校が発展していくことを願っています。少し早いですが、今年度も誠にありがとうございました。今後とも、出町中学校を何卒よろしく願い申し上げます。

「一步 踏み出す」出中生 ～学校評価アンケートより～

生徒に行ったアンケートでは、「授業では、自分の考えをまとめたり、他の人と話し合って、考えや取り組み方を見直したりして、課題を解決につなげることができた」「よりよい学校生活になるように、自分から行動することができた」「自分の健康に気を配り、元気に過ごすことができた」の各項目において、全校生徒の90%近くが「とてもそう思う」または「だいたいそう思う」と回答しています。

授業や生徒会活動、部活動等において、仲間と共に考え、新たな一步を踏み出している生徒の様子が、データの上からも確かめられたと感じます。

今年度も残りわずかとなりましたが、引き続き、出中生の挑戦を全力で支えていきます。

令和7年度4月行事

7日(月) 始業式

9日(水) 入学式 AM

10日(木) 創校記念式

19日(土) 授業参観 PM

PTA 総会 PM

28日(月) 振替休業日



※学校ホームページ鋭意更新中→